付表 2　産総研 GSJ 年表

利光誠一[1)]・140 周年記念号編集委員会

産総研発足前後から 2022 年度始めまでの GSJ の人員構成・予算，事業史，関連の社会の動向などを，
産総研年報・広報誌，GSJ 広報誌，そのほか諸資料をもとに作成.

年	年度経費及び人員	地質調査総合センター事業史	地学史及び関連事項	一般史
2000（平成12）			第31回 万国地質学会議（リオデジャネイロ）(8.7-19) 松江市で地質情報展を開催（9.29-10.1） 地質標本館試料調製課に人事院総裁賞（11.29）	白川英樹 筑波大学名誉教授にノーベル化学賞（12.10）
2001（平成13）	GSJ事業費：5,999,379,541円 339名（研コ2・0, 深地35・2, 活断14・16, 地球92・2, 地圏67・2, 海洋70・2, 成情4・21,成標4・7, 国際5・3, 北地1・3, 西地1・0）（産総研事業費総計：98,148,502,411円；職員総計：3,203名）	通商産業省工業技術院地質調査所から経済産業省産業技術総合研究所地質調査所に移行(1.1) 経済産業省産業技術総合研究所傘下の15研究所が独立行政法人産業技術総合研究所に移行（地質の調査に関わる業務を担う組織として深部地質環境研究センター，活断層研究センター，地球科学情報研究部門，地圏資源環境研究部門，海洋資源環境研究部門，成果普及部門地質調査情報部，成果普及部門地質標本館，国際部門国際地質協力室，北海道地質調査連携研究体，関西地質調査連携研究体が設置され，これらを地質調査総合センター（GSJ）と総称，研究コーディネータ（金原啓司）を置く (4.1) 地質調査所月報を地質調査研究報告に名称変更 (4.1) 三宅高校の生徒を招待して三宅島火山に関する授業（4.17） 2001年地球惑星科学関連学会合同大会にGSJブース出展（6.4-8） 日本周辺海域音波探査データベース（CD-ROM版）出版 日本地質図索引図データベースCD-ROM版（1960～1999） 北海道地質ガイド（CD-ROM） 東・東南アジア都市域の地球科学情報（CD-ROM） 陸域地質図プロジェクト（継続） 海域地質図プロジェクト（継続） 衛星プロジェクト（継続） 原子力安全規制支援研究プロジェクト（開始） 「活断層・古地震研究報告」創刊（継続）	最新地質図発表会開催（科学技術館）（9.12） 金沢市で北陸地質情報展を開催（9.21-23）	国立研究所の独立行政法人化 (4.1) 産総研理事長に吉川弘之が就任（4.1） 米国で同時多発テロ（9.11） 野依良治 名古屋大学物質科学国際研究センター長にノーベル化学賞 (12.10)
2002（平成14）	GSJ事業費：5,681,063,383円 327名（研コ1・0, 深地32・2, 活断14・2, 地球94・2, 地圏70・2, 海洋60・2, 成情4・20,成標3・7, 国際5・2, 北地1・3, 西地1・0）（産総研事業費総計：91,990,306,581円；職員総計：3,157名）	地質調査総合センター記念講演会（明治記念館）（6.7） JIS A 0204:2008 地質図 -- 記号，色，模様，用語及び凡例表示　公開（7.20） 火山とともに生きる大地―北海道の地質図展―（札幌市博物館活動センター）（8.2-4） 2002年地球惑星科学関連学会合同大会にGSJブース出展（5.27-31） 地質情報展にいがた「のぞいてみよう大地の不思議」（新潟市民芸術文化会館 りゅ～とぴあ）（9.14-16） 200万分の１地質編集図（第５版）出版 50万分の１活構造図出版	大阪市で近畿の地質図展開催 (2.16-17) 松江千佐世が「第43回文部科学大臣賞創意工夫功労者表彰」を受賞（4.15） 新潟市で地質情報展を開催（9.14-16）	コンゴのニーラゴンゴ火山で大規模な噴火 (2.1) アフガニスタン北部地震 Mw7.4 (3.3) アフガニスタン北部地震 Mw6.1 (3.25) 小柴昌俊 東京大学名誉教授にノーベル物理学賞，田中耕一 島津製作所ライフサイエンス研究所主任にノーベル化学賞 (12.10)
2003（平成15）	GSJ事業費：5,317,911,332円 304名（研コ1・0, 深地31・2, 活断13・1, 地球86・2, 地圏64・2, 海洋58・2, 成情4・19,成標4・5, 国際4・1, 北地1・3, 西地1・0）（産総研事業費総計：92,185,574,615円；職員総計：3,115名）	2003年地球惑星科学関連学会合同大会にGSJブース出展 (5.26-29) 研究コーディネータに佃　栄吉就任 (12.1) 100万分の1日本地質図 第3版 CD-ROM版 第2版出版 20万分の1日本シームレス地質図公開（開始） 土壌・地質汚染評価基本図の公開（開始）	石原舜三産総研特別顧問がロシアアカデミー会員に選出（5.22） 静岡市で地質情報展を開催(9.19-21)	熊本県水俣市宝川内集地区で集中豪雨による土石流（7.20） 宮城県沖地震 Mj7.1（最大震度6弱）（5.26） 宮城県北部の地震 Mj6.4（最大震度6強）（7.26） 十勝沖地震 Mj8.0（最大震度6弱）（9.26） イラン地震 Mw6.6（12.26）

1）産総研 地質調査総合センター連携推進室

年	年度経費及び人員	地質調査総合センター事業史	地学史及び関連事項	一般史
2004（平成16）	GSJ事業費：5,007,361,959円 285名（代表・研コ1・0, 産コ1・0, 深地32・2, 活断16・1, 地質119・3, 地圏68・2, 情セ10・16,広標4・6, 北地1・2, 西地1・0）（産総研事業費総計：98,814,197,978円；職員総計：3,188名）	地球科学情報研究部門と海洋資源環境研究部門を改廃し，地質情報研究部門新設（5.1） 2004年地球惑星科学関連学会合同大会にGSJブース出展（5.9-13） 地質調査情報センター設置（8.1） 日本の地球化学図出版 大陸棚調査プロジェクト（開始）	千葉市で地質情報展を開催（9.18-20）	第1回世界ジオパークネットワーク会議（中国 北京）(6.27-7.7) 千葉県山武郡九十九里町の九十九里いわし博物館でガス爆発事故 (7.30) 第32回万国地質学会議（フィレンツェ）（8.20-28） 浅間火山噴火 (9.1) 新潟県中越地震 Mj6.8（最大震度7）（10.23） スマトラ島沖地震 Mw9.1（12.26）
2005（平成17）	GSJ事業費：5,400,441,106円 284名（代表・研コ1・0, 産コ1・0, 深地30・2, 活断19・1, 地質122・3, 地圏64・2, 情セ10・15,広標4・7, 北産1・2, 西産1・0）（産総研事業費総計：93,974,058,264円；職員総計：3,193名）	活断層データベース公開（3.23） つくば西事業所他にメタンハイドレート研究ラボが設置され地圏資源環境研究部門から4名が異動（4.1） 2005年地球惑星科学関連学会合同大会にGSJブース出展（5.22-26） 第1回GSJシンポジウム「高く乏しい石油時代が来た」（6.28） 第2回GSJシンポジウム「地震考古学の果たす役割」（6.29） 地質標本館開館25周年記念イベント（10.29） 地質図ライブラリー開設（11.1） 第3回GSJシンポジウム「付加体と土木地質 －地質図の有効性と限界－」（11.29） 20万分の１日本シームレス地質図（全国版）公開 GEOLIS+（日本地質文献DB）運用開始	日本地球惑星科学連合発足（5.25） 「日本の地球化学図」が環境賞を受賞（5.26） 海洋開発研究機構の地球深部探査船「ちきゅう」竣工（7.9） 「地質情報展」に日本地質学会表彰（「地質学の教育・普及に貢献」）（9.18） 京都市で地質情報展を開催（9.18-20）	鹿児島県吾平町の斜面崩壊（2.8） 福岡県西方沖地震 Mj7.0（最大震度6弱）（3.20） スマトラ島沖地震 Mw8.6（3.28） 産総研第2期中期計画の始まり（4.1） 科学技術週間に「一家に1枚」シリーズの発行開始（文部科学省）（4.18 ） つくばエクスプレス開通（8.25） パキスタン北部カシミール地方地震 Mw7.6（10.8） 小惑星探査機「はやぶさ」が小惑星「イトカワ」に着地しサンプル採取（11.20, 11.26）
2006（平成18）	GSJ事業費：8,595,879,891円 279名（代表・研コ1・0, 産コ1・0, 深地28・1, 活断17・1, 地圏64・3, 地質124・2, 情セ9・14, 広標4・7, 北産1・1, 東産1・0, 西産1・0）（産総研事業費総計：96,673,762,772円；職員総計：3,208名）	第4回GSJシンポジウム「次の南海・東南海地震にどう備えるか」（1.17） 第5回GSJシンポジウム「社会のための地球科学　－日本とドイツの地球科学における交流－［日本におけるドイツ2005/2006］」（1.25） 地質標本館入館者70万人達成（7.22） 第6回GSJシンポジウム「地質情報の社会貢献を考える」（11.14） 活火山データベース（火山地質図集，1万年噴火イベント集）公開 地殻応力場データベース公開	菅原義明が「平成18年度文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞」を受賞（4.18） 日本地球惑星科学連合2006年大会（第1回年次大会）（5.14-18） 地質標本館編集「地球 図説アースサイエンス」（誠文堂新光社）初刷発行（9.3） 高知市で地質情報展を開催（9.15-17） 第2回世界ジオパークネットワーク会議（Belfast, U.K.）（9.17-21）	雌阿寒岳噴火（3.21） 産総研に再雇用によるワイドキャリアスタッフ制度発足（4.1） 岐阜県揖斐川町東横山の揖斐川沿いで地すべり（5.12-13） ジャワ島中部地震 Mw6.3（5.27） ジャワ島南西沖地震 Mw7.7（7.7）
2007（平成19）	GSJ事業費：6,859,850,929円 278名（代表・研コ1・0, 産コ1・0, 活断15・1, 地圏77・3, 地質126・2, 情セ18・14, 広標3・8, 北産1・1, 東産1・0, 西産1・0）（産総研事業費総計：95,188,796,081円；職員総計：3,166名）	GSJ代表の発令（代表：研究コーディネータ佃　栄吉）（4.1） 深部地質環境研究センターが終了し，深部地質環境研究コアが発足（4.1） 第7回GSJシンポジウム「地質学から地震の予測を目指す －産総研における地震研究－」（6.11） 第8回GSJシンポジウム「公共財としての地質地盤情報　－ボーリングデータの整備と活用－」（7.25） 札幌で地質情報展を開催（9.7-9） 第9回GSJシンポジウム「地質学的手法による火山活動予測　－火山災害の軽減を目指して－」（12.19） 沿岸域の地質・活断層調査（開始） 外部研修プログラム「地質調査研修」開始（2007年10月；管理・運営：地学情報サービス株式会社） 国際研修実施	IYPEシンポジウム「国際惑星地球年2007-2009」開催宣言式典（1.22） 科学技術週間に 「一家に1枚 宇宙図 2007」発行（4.16） 中島和敏・川畑　晶が「平成19年度文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞」を受賞（4.16） 札幌市で地質情報展を開催（9.7-9）	能登半島沖地震 Mj6.9（最大震度6強）（3.25） 産総研に再雇用によるシニアスタッフ制度発足（4.1） 東京都渋谷区松濤一丁目の温泉施設でガス爆発事故（6.19） 新潟県中越沖地震 Mj6.8（最大震度6強）（7.16） ペルー沖地震 Mw8.0（8.15） オルドイニョ・レンガイ（タンザニア）噴火（9.4） スマトラ島沖地震 Mw8.4（9.12） 第1回国際地学オリンピック（韓国 Daeguおよび Yeongwol）（10.7-15）

年	年度経費及び人員	地質調査総合センター事業史	地学史及び関連事項	一般史
2008（平成20）	GSJ事業費：7,087,305,323円 282名（代表・フェ1・0, 研コ1・0, 産コ1・0, 活断13・1, 地圏73・2, 地質123・2, 情セ18・15, 広標3・8, 北産1・0, 東産1・0）（産総研事業費総計：95,571,215,614円；職員総計：3,091名）	第10回GSJシンポジウム「地質リスクとリスクマネージメント　－地質事象の認識における不確実性とその対応－」（3.11） 第11回GSJシンポジウム「地下水のさらなる理解に向けて　～産総研のチャレンジ～」（3.19） JIS A 0205:2008 ベクトル数値地質図 -- 品質要求事項及び主題属性コード公開（3/20） JIS A 0206:2008 工学地質図に用いる記号，色，模様，用語及び地層・岩体区分の表示とコード群　公開（3.20） GSJ代表に加藤碩一（産総研フェロー）が就任（4.1） 第12回GSJシンポジウム「地下水と岩石物性との関連の解明　～産総研のチャレンジ～」（5.8） 第1回地質の日記念イベント（GSJ本館・地質標本館：5.10、つくばフェスティバル出展：5.10-11、野外観察会：5.17） AIST-KIGAMワークショップ（開始） 沖縄海域の海洋地質調査（開始） 表層土壌評価基本図の公開（開始） 国際研修実施	経済産業省本館ロビーで第1回地質の日関連展示（4.14-5.12） 青木正博に文部科学大臣表彰（科学技術賞 理解増進部門）（4.15） 齋藤英二が「平成20年度文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞」を受賞（4.15） 第1回日本ジオパーク委員会開催（5.28） 第3回世界ジオパークネットワーク会議（Osnabrück, Germany）（6.22-26） 第33回万国地質学会議（オスロ）（8.6-14） 第2回世界地学オリンピック（フィリピン）（8.31-9.6） 秋田市で地質情報展を開催（9.19-21） 第3回日本ジオパーク委員会開催（洞爺湖有珠山，糸魚川，島原半島の3地域を世界ジオパークネットワーク加盟申請地域に決定）（10.20） 第4回日本ジオパーク委員会開催（洞爺湖有珠山，糸魚川，島原半島，アポイ岳，南アルプス中央構造線エリア，山陰海岸，室戸の7地域を日本ジオパークに認定）（12.8）	第1回地質の日（5.10） 中国四川大地震 Mw7.9（5.12） 岩手県・宮城県内陸地震 Mj7.2（最大震度6強）（6.14） 岩手県沿岸北部の地震 Mj6.8（最大震度6強）（7.24） 白馬大雪渓で斜面崩壊（8.19） 霧島山新燃岳噴火（8.22） 第１回産総研オープンラボ（10.20-21） 南部陽一郎 シカゴ大学名誉教授・小林　誠 高エネルギー加速器研究機構名誉教授・益川敏英 京都大学名誉教授にノーベル物理学賞，下村 脩 ボストン大学名誉教授にノーベル化学賞（12.10）
2009（平成21）	GSJ事業費：7,739,023,591円 263名（代表・フェ1・0, 研コ1・0, 産コ1・0, 活震26・1, 地圏79・2, 地質107・2, 情セ13・13, 広標3・7, 北産1・0）（産総研事業費総計：95,766,749,289円；職員総計：3,070名）	第13回GSJシンポジウム「海域・沿岸域の資源・環境・防災　－持続的発展に向けた海洋地質研究－」（2.26） 活断層研究センターが終了し，活断層・地震研究センターが発足（4.1） 第14回GSJシンポジウム「地質リスクとリスクマネジメント（その2）－海外の事例と国内での新たな取り組み－」（6.15） 第15回GSJシンポジウム「古地震と現在の地殻活動から地震を予測する－産総研　活断層・地震研究センターが目指す地震研究－」（7.2） 自治体防災担当職員の技術研修受け入れ（11.25-12.2） 沿岸域の地質・活断層調査の成果第1弾として海陸シームレス地質情報集「能登半島北部沿岸域」出版	第1回日本地学オリンピック本選（3.29） 渡辺和明が「平成21年度文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞」を受賞（4.14） 洞爺湖有珠山，糸魚川，島原半島の3地域が世界ジオパークに認定（8.23） ジオネットワークつくば（JST支援事業～2011年度）開始（9.1） 岡山市で地質情報展を開催（9.5-6） 第3回国際地学オリンピック（台湾）（9.14-22） 第6回日本ジオパーク委員会開催（恐竜渓谷ふくい勝山，隠岐，阿蘇，天草御所浦の4地域を日本ジオパークに認定）（10.28）	浅間火山噴火（2.2） 産総研理事長に野間口 有が就任（4.1） 千島列島マツア島サリチェフ火山で大規模な噴火（6.12） 山口県防府市で土石流の発生（7.21） 駿河湾地震　Mj6.5（最大震度6弱）（8.11） サモア沖地震 Mw8.1（9.29） スマトラ島沖地震 Mw7.6（9.30）
2010（平成22）	GSJ事業費：5,514,924,169円 263名（統括・理事1・0, 代表・フェ1・0, 副統1・0, 企画5・1, 活震27・0, 地圏79・0, 地質102・0, 情セ6・14, 標本9・7, 北産1・0）（産総研事業費総計：85,296,537,617円；職員総計：3,044名）	地質標本館が広報部の部署から地質分野の研究推進組織に移行（10.1） 第16回GSJシンポジウム「20万分の1地質図幅完全完備記念シンポジウム－全国完備後の次世代シームレス地質図を目指して－」（11.16） 自治体防災担当職員の技術研修受け入れ（11.15-19） 放射性鉱物管理棟（7-7棟）およびボーリングコア管理棟（7-9棟）完成（12.1） 20万分の1地質図幅全国完備	第2回日本地学オリンピック本選「グランプリ地球にわくわく2010」がつくば市で開催（3.24-26） 国際惑星地球年（IYPE）終了記念イベント開催（3.27-28） 第4回世界ジオパークネットワーク会議（Langkawi, Malaysia）（4.12-16） 今井　登・岡井貴司・寺島　滋・御子柴真澄・太田充恒が「平成22年度文部科学大臣表彰科学技術賞」を受賞（4.13） 澤井祐紀が「平成22年度文部科学大臣表彰若手科学者賞」を受賞（4.13） 宮崎純一が「平成22年度文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞」を受賞（4.13） 第1回日本ジオパーク全国大会（糸魚川大会）（8.22-23） 第9回日本ジオパーク委員会開催（霧島，伊豆大島，白滝の3地域を日本ジオパークに認定）（9.14） 富山市で地質情報展を開催（9.17-19） 第4回国際地学オリンピック（インドネシア）（9.19-28） 山陰海岸が世界ジオパークに認定（10.3）	ハイチ地震 Mw7.0（1.12） チリ地震 Mw8.8（2.27） エイヤフィヤトラヨークトル（アイスランド）の火山噴火（3.20） 産総研第3期中期計画の始まり（4.1） スマトラ島沖地震 Mw7.8（4.6） 中国青海省の地震 Mw6.9（4.14） スマトラ島沖地震 Mw7.2（5.9） グアテマラ・パカヤ火山噴火（噴火と熱帯暴風雨で死者・行方不明者多数）（5.27） 小惑星探査機「はやぶさ」帰還（6.13） 鹿児島県南大隅町で斜面崩壊（土石流）（7.4-8） 岐阜県南部で豪雨により斜面崩壊及び可児川の氾濫（7.15） 広島県庄原市川北町で豪雨により土砂災害（7.16） 第1回「ジオパークの日」（8.22） インドネシア・スマトラ島のシナブン山噴火（8.30） クライストチャーチ地震 Mw7.0（9.3） スマトラ島沖地震 Mw7.8（10.25） インドネシア・ジャワ島のムラピ山噴火（10.26） ロシア・カムチャッカ半島のクリュチェフスカヤ山とシベルチ山が同時噴火（10.28） 鈴木　章 北海道大学名誉教授・根岸英一 パデュー大学特別教授にノーベル化学賞（12.10）

年	年度経費及び人員	地質調査総合センター事業史	地学史及び関連事項	一般史
2011（平成23）	GSJ事業費：5,845,364,150円 257名（統括・理事1・0, 代表・副統1・0, 企画5・1, 活震30・0, 地圏71・0, 地質112・0, 情セ4・13, 標本11・6, 北産1・0, 東産1・0）（産総研事業費総計：84,477,777,588円；職員総計：3,000名）	第17回GSJシンポジウム「地質地盤情報の法整備を目指して」（2.28） 東日本大震災で地質標本館休館（3.11-4.18） 地質分野副研究統括 佃　栄吉がGSJ代表となる（4.1） 2011年東北地方太平洋沖地震に伴う海底での土砂輸送と擾乱の発見（プレス発表;10.20） 2011年度地震・津波に関する自治体職員用研修プログラム（11.14-18） GSJニュースレター発行終了（12.22） 巨大地震による複合的地質災害に関する調査・研究（～2013年度）	地質ニュース発行終了（3.1） 渡辺真人・吉川敏之・濱崎聡志が「平成23年度文部科学大臣表彰　科学技術賞（理解増進部門）」を受賞（4.11） 渡邊頼子が「平成23年度科学技術分野文部科学大臣表彰創意工夫功労賞」を受賞（4.11） 「一家に1枚 磁場と超伝導」発行（4.18） 第12回日本ジオパーク委員会開催（男鹿半島・大潟，磐梯山，茨城県北，下仁田，秩父，白山手取川の6地域を日本ジオパークに認定）（9.5） 水戸市で地質情報展を開催（9.10-11） 第5回国際地学オリンピック（イタリア）（9.5-14） 室戸地域が世界ジオパークに認定（9.18） 第2回日本ジオパーク全国大会（洞爺湖有珠山大会）（9.29-10.1）	霧島山新燃岳噴火（1.26） クライストチャーチ地震 Mw6.1（2.22） 東北地方太平洋沖地震 Mw9.0（最大震度7；東日本大震災，津波による甚大な被害被る）（3.11） 福島第一原発事故（3.11） 第3回日本地学オリンピック本選（3月中止のため）（6.11-12） アメリカ合衆国東部で地震 Mw5.8（8.24） 紀伊半島で台風12号による土砂災害（9.3） トルコ東部の地震 Mw7.1（10.23）
2012（平成24）	GSJ事業費：6,476,060,003円 257名（代表・統括・理事1・0, 副統1・0, 企画6・1, 活震30・0, 地圏66・0, 地質106・0, 情セ8・13, 標本9・7, 北産1・0, 東産1・0）（産総研事業費総計：84,477,777,588円；職員総計：2,942名）	第18回GSJシンポジウム「地質学で読み解く過去の巨大地震と将来の予測－どこまでわかったか－」（1.12） 第19回GSJシンポジウム「社会ニーズに応える地質地盤情報－都市平野部の地質地盤情報をめぐる最新の動向－」（1.31） GSJ地質ニュース創刊（月刊）（1.15） GSJ代表に佃　栄吉（地質分野担当理事）が就任（4.1） 地質標本館　春の特別展「砂漠を歩いてマントルへ―中東オマーンの地質探訪― Desert to Mantle: Exploring Oman's geology」が日本・オマーン国交樹立40周年特別企画として開催（4.17-7.1） 2012年度地震・津波に関する自治体職員用研修プログラム（11.5-9） 日本重力データベースDVD版出版 JIS A 0205:2012 ベクトル地質図–主題属性コード及び品質要求事項，JIS A 0204:2012 地質図–記号，色，模様，用語及び凡例表示公開 地質地盤図プロジェクト（開始） 地質図Navi公開開始 地質調査研修（日本地質学会主催で継続）に講師派遣協力	石油天然ガス・金属鉱物資源機構の海洋資源探査船「白嶺」竣工（1.31） 第1回アジア太平洋大規模地震・火山噴火リスク対策ワークショップG-EVER1（2.22-25） ジオネットワークつくばがジオマイスター中級20名認定（2.26） 「一家に1枚 太陽」発行（4.16） 澤井祐紀・宍倉正展・行谷佑一・岡村行信が「平成24年度科学技術分野文部科学大臣表彰科学技術・開発部門」を受賞（4.17） 第5回世界ジオパークネットワーク会議（島原半島, 日本）（5.12-15） 第34回万国地質学会議（ブリスベン）（8.5-10） 大阪市で地質情報展を開催（9.15-17） 第15回日本ジオパーク委員会開催（八峰白神，ゆざわ，銚子，箱根，伊豆半島の5地域を日本ジオパークに認定）（9.24） 第6回国際地学オリンピック（アルゼンチン）（10.8-18） 石原舜三産総研特別顧問がハドン・フォレスター・キングメダルを受賞（10.19） 第3回日本ジオパーク全国大会（室戸大会）（11.2-5）	新潟県上越市板倉区国川地内で地すべり（3.7） 第1回科学の甲子園（24-26） つくば市で竜巻（5.6） 新潟県南魚沼市八箇峠トンネルの工事現場でガス爆発事故（5.24） 阿蘇カルデラ北東部で猛烈な雨による斜面崩壊（7.12） 筑波山地域ジオパーク推進協議会が発足（8.23） 山中伸弥 京都大学教授がノーベル医学生理学賞を受賞（12.10）
2013（平成25）	GSJ事業費：6,684,854,406円 249名（代表・統括・理事1・0, 副統1・0, 企画6・1, 活震29・0, 地圏60・0, 地質108・0, 再生7・0, 情セ6・13, 標本9・7, 北産1・0）（産総研事業費総計：85,575,547,183円；職員総計：2,939名）	第20回GSJシンポジウム「地質学は火山噴火の推移予測にどう貢献するか」（1.22） 2013年度地震・津波に関する自治体職員用研修プログラム（7.1-4） 第21回GSJシンポジウム「古地震・古津波から想定する南海トラフの巨大地震」（7.10） JIS A 0206:2013 地質図–工学地質図に用いる記号，色，模様，用語及び地層・岩体区分の表示とコード群　公開（8.20） 福島再生可能エネルギー研究所の発足に伴い，地熱チーム，地中熱チームが同センターを拠点とする再生可能エネルギー研究センター内に設置（10.1） 第22回GSJシンポジウム「アカデミックから身近な地質情報へ」（11.30） 日本の火山 第3版出版 QuiQuake地震動マップ公開 地質標本館展示改修（1階ロビー天井の日本列島周辺の震源分布模型、岡谷活断層のはぎ取り標本、仙台平野の津波堆積物のはぎ取り標本、映像室の地中熱ヒートポンプシステム設置、2階第3展示室の千葉県神崎町の地盤液状化層のはぎ取り標本設置など）	「一家に1枚 鉱物―地球と宇宙の宝物―」の発行（4.15） 隠岐地域が世界ジオパークに認定（9.10） 第7回国際地学オリンピック（インド）（9.11-19） 仙台市で地質情報展を開催（9.14-16） 第18回日本ジオパーク委員会（三笠，三陸，佐渡，四国西予，おおいた姫島，おおいた豊後大野，桜島・錦江湾の7地域を日本ジオパークに認定）（9.24） 第9回日本ジオパーク全国大会（隠岐大会）（10.15-18） 第2回G-EVER国際シンポジウム、第1回IUGS・日本学術会議国際ワークショップ（10.19-20） 東・東南アジア地球科学計画調整委員会（CCOP）第49回年次総会（10.20-26） 芝原暁彦の「精密立体地質模型による地形情報・地質情報の可視化と、博物館・ジオパーク等での活用」が「G空間EXPO2013・Geoアクティビティフェスタ」にて優秀賞を受賞（11.16） 第19回日本ジオパーク委員会（とかち鹿追地域を日本ジオパークに認定）（12.16）	産総研理事長に中鉢良治が就任（4.1） 淡路島付近の地震 Mj6.3（最大震度6弱）（4.13） 諏訪之瀬島御岳噴火（8.26） 伊豆大島西部で豪雨による斜面崩壊（10.16） 西之島火山噴火（→2016年10月上陸調査）（11.20） 第1回科学の甲子園ジュニア（東京都渋谷区）（12.21-22）

年	年度経費及び人員	地質調査総合センター事業史	地学史及び関連事項	一般史
2014（平成26）	GSJ事業費：6,389,111,040円 248名（代表・統括・理事1・0, 副統1・0, 企画6・1, 活火66・0, 地圏59・0, 地質67・0, 再生10・0, 情セ6・14, 標本9・7, 北産1・0）（産総研事業費総計：90,455,634,366円；職員総計：2,920名）	活断層・地震研究センターの終了により，活断層・火山研究部門が発足（4.1） 地質調査総合センターに再生可能エネルギー研究センターの地熱チーム、地中熱チームを設置（4.1） 2014年度地震・津波・火山に関する自治体職員用研修プログラム（7.14-17） 日本の自然放射線(「日本の地球化学図」補遺)発行 「津波堆積物データベース」の公開	「SATテクノロジーショーケース2014」において「20万分の1日本シームレス地質図の新サービスと活用事例」が「ベスト産業実用化賞」を受賞（1.24） 百目鬼洋平が「平成26年度科学技術分野文部科学大臣表彰創意工夫功労賞」を受賞（4.15） 川辺能成・坂本靖英・駒井武が「地圏環境リスク評価システムの開発」の業績で第41回「環境賞」優良賞を受賞（6.11） 第21回日本ジオパーク委員会（立山黒部，南紀熊野，天草の3地域が日本ジオパークに認定）（8.28） 鹿児島市で地質情報展を開催（9.13-15） 第8回国際地学オリンピック（スペイン）（9.22-28） 阿蘇地域が世界ジオパークに認定（9.23） 第5回日本ジオパーク全国大会（南アルプス大会）（9.27-29） 第22回日本ジオパーク委員会（苗場山麓地域を日本ジオパークに認定）（12.22）	第38回全国高等学校総合文化祭「いばらき総文2014」（つくば市，ほか）（7.27-31） 長野県南木曽町で土石流（7.9） 口永良部島新岳噴火（8.3） 経産省子どもデー（第1回；経産省本館）（8.6-7） 広島市で大雨による土石流及び斜面崩壊（8.20） 御嶽火山噴火（9.27） 第１回産総研テクノブリッジフェア（10.23-24） 長野県北部の地震 Mj6.7（最大震度6弱）（11.22） 阿蘇火山中岳噴火（11.25） 赤崎　勇 名城大教授・天野　浩 名古屋大教授・中村修二 米カリフォルニア大サンタバーバラ校教授がノーベル物理学賞を受賞（12.10）
2015（平成27）	GSJ事業費：13,795,912,246円 247名（セ長・理事1・0, 戦長1・0, 戦略8・1, 活火62・0, 地圏57・0, 地質74・0, 再生13・0, 基盤9・20, 北産1・0）（産総研事業費総計：88,924,558,538円；職員総計：2,941名）	第23回GSJシンポジウム「日本列島の長期的地質変動の予測に向けた取り組みと今後の課題－数十万年の過去を解明し、将来を予測する技術・知見・モデル－」（1.16） 深部地質環境研究コアが終了（3.31） 地質調査総合センター（GSJ代表→地質調査総合センター長）に，研究戦略部が設置，地質調査情報センターと地質標本館が統合され，地質情報基盤センター発足（4.1） 2015年度地震・津波・火山に関する自治体研修プログラム（7.13-16） 第1回GSJジオ・サロン「模型でのぞくジオ・ワールド」（12.21）	大熊洋子が「平成27年度科学技術分野文部科学大臣表彰創意工夫功労賞」を受賞（4.17） 齋藤文紀がVAST Campaign Medal（ベトナム科学技術院メダル）を受賞（5.18） 第24回日本ジオパーク委員会（栗駒山麓，Mine 秋吉台，三島村・鬼界カルデラの3地域を日本ジオパークに認定）（9.4） 大和田　朗・佐藤卓見・平林恵里が「粘土および鉱物の脆弱試料に対する薄片作製法の開発」の業績で平成27年度に本粘土学会技術賞を受賞（9.4） 長野市で地質情報展（9.11-13） 第9回国際地学オリンピック（ブラジル）（9.13-20） アポイ岳地域が世界ジオパークに認定（9.19） 第6回日本ジオパーク全国大会（霧島大会）（10.27-29） 第38回ユネスコ総会において世界ジオパークのユネスコ正式事業化決定（11.18）	独立行政法人の見直しにより，国立研究開発法人産業技術総合研究所となる；産総研第4期中期計画の始まり（4.1） 口永良部島新岳噴火（5.29） 箱根火山大涌谷小規模噴火（6.29-7.1） 茨城県常総市の鬼怒川が豪雨により決壊（9.10） 梶田隆章 東京大宇宙線研究所長がノーベル物理学賞を受賞，大村　智 北里大特別栄誉教授がノーベル医学生理学賞を受賞（12.10）
2016（平成28）	GSJ事業費：9,338,292,997円 243名（セ長・理事1・0, 戦長1・0, 戦略9・1, 活火63・0, 地圏56・0, 地質71・0, 再生12・0, 基盤8・20, 北産1・0）（産総研事業費総計：89,563,193,938円；職員総計：2,963名）	産総研にSustainable Remediationコンソーシアムを設立（2.1） 第2回GSJジオ・サロン「化石のおいしい話」（2.1） 第3回GSJジオ・サロン「鉱物とあそぼう！～さあ、アクアマリンの世界へ」（3.27） 第4回GSJジオ・サロン「「石が息づく世界」」（4.16） 第5回GSJジオ・サロン「ウェブカラ地質図」（5.30） 2016年度地震・津波・火山に関する自治体研修プログラム（7.11-14） 第6回GSJジオ・サロン「富士山を考える」（8.1） 筑波山地域ジオパーク認定記念地質標本館イベント（9.17） 日本ジオパーク認定記念（筑波山地域）地質標本館臨時展示（10.4-10.29） 第7回GSJジオ・サロン「みんなの地質図」（10.11） 筑波山地域ジオパーク認定記念地質標本館講演会（10.16） 第8回GSJジオ・サロン「『日本周辺のメタンハイドレート』―なぜそこにあるのか？―」（11.21） 第9回GSJジオ・サロン「金の魅力」（12.19） 100万分の1地質図幅「東アジア地域地震火山災害情報図」出版 富士火山地質図（第2版）発行	金子（吉田）清香が「平成28年度科学技術分野文部科学大臣表彰創意工夫功労賞」を受賞（4.21） 日本地質学会が「県の石」（岩石・鉱物・化石）選定（5.10） NHK「ブラタモリ」制作スタッフに国土地理院が「測量の日」功労者感謝状贈呈（6.3） 第10回国際地学オリンピック（日本，三重県）（8.20-27） 第35回 万国地質学会議（南アフリカ）（8.27-9.4） 第28回日本ジオパーク委員会（箱根，下北，筑波山地域，浅間山北麓，鳥海山・飛島の5地域を日本ジオパークに認定）（9.9） 東京都世田谷区で地質情報展を開催（9.10-12） 「地質図Navi」が「日本地質学会表彰」を受賞（9.10） 日本鉱物科学会が日本の石（ひすい）選定（9.24） 第7回日本ジオパーク全国大会（伊豆半島大会）（10.10-12） 豊遙秋元地質標本館館長にちなんで命名された新鉱物「豊石（ぶんのせき）」がMiner. Petrol.誌に論文公表（12）	熊本地震発生 Mj6.5（最大震度7）（のちに"前震"と判明）（4.14） 熊本地震本震発生 Mj7.3（最大震度7）（4.16） 国民の祝日「山の日」開始（8.11） 特定国立研究開発法人による研究開発等の促進に関する特別措置法により，理化学研究所，産業技術総合研究所，物質・材料研究機構の3機関を特定国立研究開発法人に指定（10.1） 阿蘇火山中岳噴火（10.8） 鳥取県中部の地震 Mj6.6（最大震度6弱）（10.21） 福岡県福岡市博多駅前道路で地下鉄工事に伴う陥没事故（11.8） ニュージーランド南島の地震 Mw7.8（11.14(日本時間11.13)） 福島県沖の地震 Mj7.4（最大震度5弱）（11.22） 113番目の元素の名称がニホニウムと正式決定（11.30） 大隅良典 東京工業大栄誉教授がノーベル医学生理学賞を受賞（12.10） 茨城県北部の地震 Mj6.3（最大震度6弱）（12.28）

年	年度経費及び人員	地質調査総合センター事業史	地学史及び関連事項	一般史
2017（平成29）	GSJ事業費：7,884,243,432円 249名（セ長1・0, 長補2・0, 戦長1・0, 戦略9・1, 活火67・0, 地圏54・0, 地質75・0, 再生13・0, 基盤8・18）（産総研事業費総計：100,231,394,979円；職員総計：3,024名）	第10回GSJジオ・サロン「沖縄の青い海の下をのぞいてみよう」（1.16） GeoBank（ジオバンク）募集開始（1.23） 第11回GSJジオ・サロン「見えない水」－地下水の今昔－（2.20） 第24回GSJシンポジウム「ようこそジオ・ワールドへ」（3.18） 第12回GSJジオ・サロン「宇宙(そら)から地質」（3.27） 地質調査総合センター長に矢野雄策が就任（4.1） 2017年度地震・津波・火山に関する自治体研修プログラム（7.10-13） 第25回GSJシンポジウム「富士山5000mの科学　－駿河湾北部の地質と自然を探る－」（9.21） 第26回GSJシンポジウム「富士山5000mの科学　－駿河湾北部の地質と自然を探る－」（10.10） 第13回GSJジオ・サロン「日本列島地殻変動の謎に迫る」（10.13） 第1回ジオ・スクール地質調査研修（11.6-10） 第27回GSJシンポジウム「全国版自然由来重金属類データ整備に向けて」（11.22） 第28回GSJシンポジウム「地圏資源環境研究部門研究成果報告会　地圏資源環境の研究ストーリー －社会へつなげる研究を目指して－」（12.7） 700 万分の 1 日本周辺海域鉱物資源分布図（第 2 版）出版 20万分の1日本シームレス地質図V2公開 3D地質地盤図（千葉県北部地域）公開 地質人材育成コンソーシアム（開始）	「GSJ LD」が「Linked Open Data チャレンジ Japan 2016 データセット部門最優秀賞を受賞」（3.11） 伊豆半島地域が世界ジオパークに認定（4.17） 第11回国際地学オリンピック（フランス）（8.22-29） NHK番組「ブラタモリ」制作チームに日本地質学会表彰（9.16） 松山市で地質情報展を開催（9.16-18） 大和田　朗が、岩石薄片作製に関する技術開発と長年の実績を含めて地質学の研究・教育の発展に大きく貢献したとして2017年度「日本地質学会功労賞」を受賞（9.16） 地質情報研究部門シームレス地質情報研究グループ開発の防災アプリ「火山重力流シミュレーション　エナジーコーンモデル（高速版）」が、国土地理院のの審査委員会で「防災アプリ賞」を受賞（9.29） 第8回日本ジオパーク全国大会（男鹿半島・大潟大会）（10.25-27） 第32回日本ジオパーク委員会（島根半島・宍道湖中海地域を日本ジオパークに認定，茨城県北地域の日本ジオパーク認定取り消し）（12.22）	大分県日田市小野で豪雨による斜面崩壊（7.5-6） 霧島山新燃岳噴火再開（10.11）
2018（平成30）	GSJ事業費：7,961,080,840円 250名（セ長1・0, 長補1・0, 戦長1・0, 戦略9・1, 活火64・0, 地圏58・0, 地質76・0, 再生14・0, 基盤8・18）（産総研事業費総計：95,791,604,696円；職員総計：3,036名）	第14回GSJジオ・サロン「体験！メタンハイドレート」（1.20） 地質標本館の日本列島立体地質図を約40年ぶりにリニューアル公開（3.1） 千葉県北部の3次元地質地盤図公開（3.27） 地質標本館来館者120万人達成（5.23） 2018年度春期地質調査研修（5.28-6.1） 2018年度GSJ国際研修（6.26-7.13） 2018年度地震・津波・火山に関する自治体研修プログラム（7.9-12） 第15回GSJジオ・サロン「水の座談会～食べて飲んで水を知る～」（8.18） 2018年度秋期地質調査研修（10.29-11.2） 第29回GSJシンポジウム「地圏資源環境研究部門研究成果報告会　粘土・粘土鉱物 ―枯渇の危機にある貴重な国内資源―」（12.6） ジオ・スクール 少人数で学ぶ地形判読研修（12.11-12） 第16回ジオ・サロン「宇宙から地質Ⅱ～映画の中のウソ？ホント!?～」（12.16）	伊豆半島地域が世界ジオパークに認定（4.17） 第12回国際地学オリンピック（タイ）（8.8-17） 地質情報展2019北海道が9.6発生の北海道胆振東部地震のため開催中止（9.7-9予定） 第35回日本ジオパーク委員会（萩地域を日本ジオパークに認定）（9.20） 第9回日本ジオパーク全国大会（アポイ岳大会）（10.6-8） 内藤一樹制作のスマホ用アプリ「鉄道地質」がLinked Open DataチャレンジJapan2018最優秀賞を受賞（12.8）	草津白根火山本白根山噴火（1.23） 霧島山新燃岳噴火再開（3.1） 島根県西部の地震 Mj6.1（最大震度5強）（4.9） 大分県中津市耶馬溪で斜面崩壊（4.11） 大阪府北部の地震 Mj6.1（最大震度6弱）（6.18） 福岡県北九州市門司区，広島県安芸郡熊野町，広島県呉市安浦町，愛媛県宇和島市吉田町，鹿児島県鹿児島市古里町，高知県幡多郡大月町等で豪雨による斜面崩壊，岡山県倉敷市真備町で豪雨による水害等（7.6-7.8） 台風21号徳島県上陸（9.2），高潮で関西国際空港が浸水，大阪府・和歌山県・兵庫県で大規模停電（9.4） 北海道胆振東部地震 Mj6.7（最大震度7; 苫東厚真発電所の被災により北海道のほぼ全域で停電）（9.6） 第1回化石の日（10.15） 国際度量衡会議にてSI基本4単位の改定が決定（11.17） 本庶　佑 京都大学名誉教授がノーベル賞生理学・医学賞を受賞（12.10 ） インドネシア西部スンダ海峡でクラカタワ火山噴火に伴う津波（スマトラ島やジャワ島海岸で甚大な被害）（12.22）

年	年度経費及び人員	地質調査総合センター事業史	地学史及び関連事項	一般史
2019 （平成31） （令和元）	GSJ事業費：8,577,542,266円 252名（セ長1・0, 長補1・0, 戦長1・0, 戦略9・1, 活火67・0, 地圏57・0, 地質79・0, 再生10・0, 基盤7・18）（産総研事業費総計：98,807,145,347円；職員総計：3,043名）	第30回GSJシンポジウム「千葉の地質と地震災害を知る」（1.18） 第17回ジオ・サロン「凸凹（でこぼこ）な日本列島!? --模型でひもとく大地の成り立ち--」（2.16） JIS A 0204:2019 地質図 -- 記号，色，模様，用語及び凡例表示　公開（3/20） JIS A 0205:2019 ベクトル数値地質図 -- 品質要求事項及び主題属性コード公開（3/20） ジオ・スクール 第1回鉱物肉眼鑑定研修（5.8-10） 2019年度春期地質調査研修（5.20-5.24） 水文環境図および全国水文環境データベース公開（5.31） 2019年度GSJ国際研修（6.4-21） 2019年度地震・津波・火山に関する自治体研修プログラム（7.2-5） 第3回日中韓ジオサミットを札幌市で開催（7.29-31） 2019年度秋期地質調査研修（10.28-11.1） 第31回GSJシンポジウム「地圏資源環境研究部門研究成果報告会　地下水、土壌、地中熱の基盤データ整備と利活用」（12.6） 第2回鉱物肉眼鑑定研修（12.6） 第32回GSJシンポジウム「神奈川の地質と災害」（12.12）	クラウドファンディングによる資金援助を得て、札幌市で地質情報展を開催（3.29-31） 「一家に1枚 日本列島7億年」の発行（4.15） 中川充に環境省第38回温泉関係功労者表彰（7.10） 第13回国際地学オリンピック（韓国）（8.26-9.3） 山口市で地質情報展を開催（9.21-23） 第10回日本ジオパーク全国大会（大分大会）（10.31-11.5）	小惑星探査機「はやぶさ２」小惑星リュウグウに2回着陸し衝突装置投入後の人工クレーターなどから試料採取に成功（2.22，7.11） 熊本県熊本地方の地震 Mj5.1（最大震度6弱）（1.3） 新しい元号の発表（5.1から「令和」）（4.1） 世界20カ国・地域が協力する国際プロジェクト「イベント・ホライズン・テレスコープ」が世界で初めておとめ座銀河団の巨大ブラックホールの撮影に成功し画像公開（4.10） 天皇陛下譲位に伴う改元（令和元年）（5.1） 国際度量衡SI基本4単位の定義改定（5.20） 山形県沖の地震 Mj6.7（最大震度6強）（6.18） 浅間火山噴火（8.7） 千葉県に台風15号上陸（暴風による大規模停電）（9.5） 静岡県に台風19号上陸（東日本を中心に豪雨による河川の決壊・氾濫など多数箇所で被害）（10.12-13） 吉野　彰 旭化成名誉フェローがノーベル化学賞を受賞（12.10）
2020（令和2）	GSJ事業費：6,994,583,751円 246名（セ長1・0, 長補1・0, 戦長1・0, 戦略10・1, 活火64・0, 地圏57・0, 地質76・0, 再生12・0, 基盤7・16）（産総研事業費総計：103,041,746,456円；職員総計：2,967名） ［2020年度までは産総研年報による］	新型コロナウイルス感染拡大に伴う予防対策で地質標本館休館（初回）（2.28-5.31） 「20万分の1日本火山図」データベースを公開（3.24） 産総研に環境調和型産業技術研究ラボ（E-code）設置（4.1） 地質標本館開館40周年（8.19） 2020年度第1回地質調査研修（9.28-10.2） 2020年度第1回追加地質調査研修（10.12-16） 2020年度第2回地質調査研修（10.26-30） 3D 地図の作成に活用できる高精度標高タイルを公開 地質調査総合センター研究奨励賞創設	民放テレビアニメ「恋する小惑星」で地質標本館（産総研）・筑波宇宙センター（宇宙航空研究開発機構）・地図と測量の科学館（国土地理院）・地学オリンピックなどを紹介（1.3～3.27放送） IUGS（国際地質科学連合）の理事会においてGSSP「千葉セクションのGSSP提案」が承認され、第四紀中期更新世の地質時代名「チバニアン」が確定（1.17） GSJが20万分の1日本シームレス地質図をまとめ、モバイル端末で利用可能としたこと、地質標本館の日本列島大型模型へのプロジェクションマッピングなどで地質図の利用や地図技術の発展に大きく寄与したとして、日本地図学会特別賞を受賞（2.29） 天草ジオパークが管理運営団体解散により消滅（3.31） GSJを含む地質図の標準化のためのJIS A0204、JIS A0205の原案作成委員会のメンバーが日本地質学会表彰を受賞（9.13）	新型コロナウイルスによる感染症「指定感染症」・「検疫感染症」に指定（1.31） 産総研理事長に石村和彦が就任（4.1） 新型コロナウイルス感染拡大に伴う政府の緊急事態宣言発出（初回）（4.7-5.24） 熊本県葦北郡内で豪雨による斜面崩壊、球磨川流域で大規模な氾濫とともに斜面災害（7.4） 宮崎県椎葉村下福良で台風10号による豪雨で斜面崩壊（9.6）
2021（令和3）	GSJ事業費：8,197百万円 246名（セ長1・0, 長補1・0, 戦長1・0, 戦略10・0, 活火65・0, 地圏57・0, 地質78・0, 再生11・0, 基盤8・15）（産総研事業費総計：118,365百万円；職員総計：2千9百名） （予算はいずれも計画、産総研職員総計は概数）	第33回GSJシンポジウム（オンライン）「地圏資源環境研究部門研究成果報告会　地圏に関わる社会課題の解決に向けて」（2.5） 地質調査総合センター長に中尾信典が就任（4.1） 東京都心部の3次元地質地盤図公開（5.21） 2021年度第1回地質調査研修（5.31-6.4） 2021年度GSJ国際研修（オンライン）（6.28-30, 7.5-7, 7.12-14） 2021年度地震・津波・火山に関する自治体研修プログラム（オンライン）（9.8-10） 2021年度第2回地質調査研修（10.25-29） 第34回GSJシンポジウム（オンライン）「防災・減災に向けた産総研の地震・津波・火山研究－東日本大震災から10年の成果と今後－」（11.12） 新型コロナウイルス感染リスク計測評価研究ラボを産総研に設置（12.20） 3次元地質地盤図（東京都区部）公開	第41回日本ジオパーク委員会（桜島・錦江湾地域を日本ジオパークに新規（エリア拡大）認定）（2.5） 羽田裕貴 産総研特別研究員が、岡田誠 茨城大学教授、菅沼悠介 国立局地研究所准教授らとともに「我が国初の地質時代名称『チバニアン』承認の礎となった地磁気逆転および古海洋変動復元に関する研究」で第31回つくば賞を受賞（3.9） 産総研「かがくチップス」シリーズ「日本の骨格を描きだせ！　～地質図作成プロジェクト～」が第62回科学技術映像祭　科学技術館館長賞を受賞（3.10） 第43回日本ジオパーク委員会（土佐清水を日本ジオパークに新規認定）（9.25） 第11回日本ジオパーク全国大会（島根半島・宍道湖中海大会）がオンラインで開催（10.3-5） NHK番組「ブラタモリ」で産総研地質調査総合センターおよび国土地理院を紹介（10.23放送）	福島県沖の地震 Mj7.3（最大震度6強）、福島県二本松市沢松倉、相馬市内で斜面崩壊（2.13） 新潟県糸魚川市来海沢で地すべり（3.4） 静岡県熱海市伊豆山で豪雨に伴い土石流（後日、盛り土の崩落と判明）（7.3） 東京オリンピック2020が1年延期で開催（7.23-8.8） 長崎県雲仙市小浜町で大雨による土砂災害（8.13） 小笠原諸島硫黄島南方約60kmの海底火山の福徳岡ノ場火山の噴火、軽石の多量噴出（8.13） 東京パラリンピック2020が1年延期で開催（8.24-9.5） 石川県能登地方の地震 Mj5.1（最大震度5弱）（9.16） 千葉県北西部の地震 Mj5.9（最大震度5強）（10.7） 阿蘇火山中岳で噴火（10.20） 民間人初の国際宇宙ステーション（ISS）滞在（12.9-20） 眞鍋淑郎 米プリンストン大学上席研究員がノーベル物理学賞を受賞（12.10）

年	年度経費及び人員	地質調査総合センター事業史	地学史及び関連事項	一般史
2022（令和4）	GSJ事業費：8,812百万円 96,631百万円（産総研事業総計） （いずれも計画）	第35回GSJシンポジウム（オンライン）「地圏資源環境研究部門研究成果報告会−ゼロエミッション社会実現に向けたCCSにおける産総研の取り組み−」（2.10） 第36回GSJシンポジウム（オンライン）「3次元で解き明かす東京都区部の地下地質」（2.25） 福島県沖を震源とする地震（Mj7.4）の影響で地質標本館休館（3.17-7.6） 2022年度第１回地質調査研修（5.16-20） 2022年度第１回追加地質調査研修（5.30-6.3） 防災・減災のための高精度デジタル地質情報整備事業（開始）	第44回日本ジオパーク委員会（十勝岳、五島列島（下五島エリア）を日本ジオパークに新規認定）（1.28） 名古屋市で地質情報展開催（2.19-20） 斎藤眞・利光誠一・川畑晶・中島和敏が「令和4年度文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)」を受賞（4.20） GSJ編集協力の「日本列島地質総覧—地史・地質環境・資源・災害—」（朝倉書店）の刊行（6.1）	フンガ火山（トンガ王国）の大爆発（1.15）で、日本列島にも顕著な海面変動 福島県沖の地震 Mj7.4（最大震度6強）（3.16）

ユニット略称：
研コ：研究コーディネータ，深地：深部地質環境研究センター，活断：活断層研究センター，地球：地球科学情報研究部門，地圏：地圏資源環境研究部門，海洋：海洋資源環境研究部門，成情：成果普及部門地質調査情報部，成標：成果普及部門地質標本館，国際：国際部門国際地質協力室，北地：産学官連携部門北海道地質調査連携研究体，西地：産学官連携部門関西地質調査連携研究体）産コ：産学官連携コーディネータ，代表：GSJ 代表，情セ：地質調査情報センター，広標：広報部地質標本館，地質：地質情報研究部門，北産：産学官連携部門北海道産学官連携センター，西産：産学官連携部門関西産学官連携センター，東産：産学官連携推進部門東北産学官連携センター，フェ：産総研フェロー，活震：活断層・地震研究センター，理事：産総研理事（地質分野担当），統括：地質分野研究統括，副統：地質分野研究副統括，企画：地質分野研究企画室，活火：活断層・火山研究部門，再生：再生可能エネルギー研究センター，基盤：地質情報基盤センター，セ長：地質調査総合センター長，長補：地質調査総合センター長補佐，戦長：地質調査総合センター研究戦略部長，戦略：地質調査総合センター研究戦略部

人員構成内訳 :() 内は，ユニット毎に研究職・事務職のそれぞれの人数を示す